環境パートナーシップちば

だより

— つながれ ひろがれ —

第１５０号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば

℡：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

SDGs 学生フォーラム in ちば 開催しました

日　時：2023 年３月 12 日（日）　13：30～16：30
会　場：千葉市生涯学習センター・オンライン
参加者：会場：39 名　　オンライン：11 名
主　催：NPO 法人環境パートナーシップちば
協　力：学生団体おりがみ　千葉大学環境 ISO 学生委員会
　　ち～ば国際協力ネットワーク CIEN
後　援：千葉県　ESD 活動支援センター　ESD-Ｊ

地域活動を展開している団体は会員の高齢化、若者は地域をよく知らない、活動しようとしてもどこに行けば良いのか分からないなど課題があります。当会は若者と NPO を繋ぐ一つとして、SDGs 学生フォーラム昨年度から開催し、今年は２回目となりました。

昨年との違いは、フォーラムの企画運営を協力団体の学生さんと準備してきたことです。

学生×NPO の科学反応は、フォーラムに参加していただいた方に感じてもらえたと思います。

Ⅰ部は、９つの団体紹介と意見交換。Ⅱ部は、会場のみで交流会を開催しました。グループごとでの話し合いでは、相手を知ること、一緒に何か出来るかな！と繋がれそうかな！など、楽しい会話が弾みました。

フォーラムの最後には、まず学生さん同士つながりましょうと提案。早速 SNS へ登録が進みます。

参加者の笑顔、楽しかった！等お聞きして、主催者としては、良い場を提供できたとうれしく思いました。この流れを次回に繋ぎます。

（文責　桑波田 和子）

SDgs 学生フォーラム in ちば　レポ

ち～ば国際教育ネットワーク CIEN（麗澤大学）今城 一夏

「SDGs 学生フォーラム in ちば」には、私は CIEN の一員として企画の段階から参加しました。

第１部の各団体による活動発表では、千葉県を中心にさまざまな分野で活動が行われていることを知り、皆さまそれぞれのアプローチの方法があることを学ぶ機会となりました。また意見交換では、学生はそれぞれの活動に関する質問をし合いながら、これからどんなことが出来るのかを話しました。

同じ学生ではありますが、学んでいる分野や活動拠点は人それぞれ違い、自分自身の活動を振り返る時間にもなりました。社会人の方は学生に向けて社会人という立場からどのようなサポートが出来るのかなどを話しました。互いに足りない部分を補い合うことでより良い活動に、未来づくりに繋がっていくことを実感しました。

第２部の交流会では、普段交わることのないさまざまな立場の方々が集まるこの時間をチャンスに「こんなサポートをしてもらいたい」「これについての意見を異なる立場の方から聞きたい」などを話しながら自由に交流をし、繋がりが広がる時間となりました。

「より良い未来をつくりたい。守っていきたいものがある。」あの時間、あの場には参加者の皆さんに共通する想いがあると感じました。同じ方向に向かっていても、そこまでの道のりは人それぞれでした。手を取り合い、点と点がつながり大きな輪になったとき、皆さんの思いが形となって現れるのではないでしょうか。今回の出会いが誰かの明日がちょっとだけ素敵になる、そんなきっかけとなればと願っています。

SDGs・ESD をひろげるための”ちば“拠点づくり事業

第４回拠点づくり会議を開催しました

日　時：2023 年１月 27 日（金）９：50～11：55
場　所：千葉市生涯学習センター研修室３　及びオンライン
参加者：22 名（会場：１２名　Zoom：10 名）
ファシリテーター：石井雅章氏　神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部 教授
主　催：NPO 法人環境パートナーシップちば

【ワークショップ-１】
拠点として一体感が感じられるテーマ＊から各自アクションを考え、出し合いました。
[＊くらしの視点。文化・祭りでつながる。学校との連携にキーマン。情報の可視化。現場（足元）での体験。対話と拠点。連携イメージを共有する活動風景（写真）。当事者のニーズに御用聞き。活動団体生態系マップ。]

【ワークショップ-２】
① 知恵と経験と関わりを「見える化する」
② 知恵と経験と関わりを「つなげる」
③ 知恵と経験と関わりを「引き継ぐ」

【まとめ】
Ｗ１での皆さんからの具体的なアイデアとして、
・エコメッセ、地球学校等のイベントを「拠点」として発信していく
・メンバーのもつネットワーク（関係性）を活かす機会をつくる
・各団体の活動記録・報告ができるプラットフォームを用意する（どこに、誰に届ける？）
・見える化が引き継ぐことへのステップになるかも
・（中小）企業や学校などの駆け込み寺（相談場所）になる
・まずは活動団体のマッピング
・交流機会の提供
・お互いのメリットになるような
・世代を超えて知恵と経験をつないでいく
などが出ました。

これらのアイディアをもとに、知恵と経験と関わりを「見える化する」「つなげる」「引き継ぐ」を、より具体的な活動に繋げるための宿題が出されましたので、次回第５回会議（3/20）では、2023 年度北拠点としての活動の方向がまとまることを期待しています。

（文責：横山 清美）

開催報告“SDGs・ESD ちば南拠点の会”第４回会議

日　時：2023 年２月７日（火）10：00～12：00
場　所：富山岩井コミュニティセンター
出　席：８団体（１０人）：NPO 法人南房総エコネット、安馬谷里山研究会、
房総野生生物研究所、（特非）たてやま・海辺の鑑定団、南房総市環境保全課、
ホテル＆リゾーツ南房総、Olaga、NPO 環パちば

協議に入る前に、SDGｓ・ESD 公開セミナー（12/4）と第４回北拠点づくり会議について情報を共有しました。また、Fry to Fry プロジェクト資源循環型の脱炭素社会実現に向けて、廃食油から航空燃料を作るプロジェクト（南房総市近隣宿泊業界、日清(株)など連携）について、南拠点の会の方からお聞きしました。

【協議】
1．２０２３年度へ向けて、出来るところから動き出してみる意見は下記になります。
・若い人などとつなぐことは重要。若者は会の活動に規制されるのは苦手であるので、お互い共感出来ることをみつける。
⇒一緒にやってみる（地域の祭りなどは若者・よそ者・地域の人などが楽しくつながれる場でもある）
・地域とつながることが重要（海・山）
・地域を知る（南房総の活動などが広がっていることから）エコツーリズムを検討。（例：海コース、里山コース）
・「SDGs フェスタ in 南房総（仮案）」・・
⇒開催出来る視点で考える。
・南拠点の HP 活用。
https://chibabasesample2.wordpress.com/
2．南拠点の会のメンバーが関わる事業案内。
①市民環境学習会　親子で楽しく学ぶ環境問題
ゴミ拾いイベントとプラゴミアート
開催日：２月２３日（木）午後
場所：千倉保健センター
共催：南房総市環境保全課　NPO 法人南房総エコネット
②ESD プログラム体験会
日時：３月７日（火）（千葉駅からバス使用）
場所：大房岬自然公園
プログラム：五感を感じる森林浴
inner journey＋沖ノ島
主催：NPO 環パちば　（文責：桑波田 和子）

環境教育関東ミーティング 2022 が開催されました

２月 11 日(土)～12 日(日)の２日間、環境教育関東ミーティング2022が千葉県立君津亀山青少年自然の家で開催されました。

2005 年から毎年開催されているのですが、2019 年度以降、新型コロナウィルス感染拡大の影響により中止・オンライン・縮小を余儀なくされ、ようやく今年度、１泊２日での通常開催が可能となりました。

今年度のテーマは「つなぐ・つながる・ひろがる環境教育　リスタート in 千葉」。普段は出会うことのできない分野の人やテーマとコラボレーションし、環境教育の分野からより魅力的な未来を創り出すための再スタートを切りました。

１ 日目のオープニングセッションや対談「コロナ禍を経て、今求められる環境教育とは」の後に行われた４つの分科会のうちのひとつとして、環パちばは「SDGs・ESD の拠点づくりのためのポイントを探そう」をテーマにワークショップを行いました。まずは、参加者からの拠点作りについての質問に桑波田さんが答える形で理解を深めてもらい、その後２グループに分かれて「①拠点にあったら良いもの」「②拠点での活動のアイデア出し」をしました。①は「話し合い・ニーズの把握・お悩み相談など、よろず的な場所」「学生と NPO 法人との交流会」など、②は「地域イベント・マルシェの開催」「ネットワークづくり」「事務局的機能」などが挙げられました。参加者は１０ 代・20 代の若い方も多く、自分の活動をするにあたり何かヒントが欲しいと真剣に考えていました。

今回の関東ミーティングは、実行委員一同想像を超える若い方々の参加がありました。そして来年度の開催に向けて既に動き始めています。次世代に何を伝えることができるか考え続けていきたいと思います。

（文責：荒川 薫）

関東 ESD 推進ネットワーク 第６回地域フォーラム

学生団体おりがみ　土屋 悠太

令和５年３月５日（日）東京ウィメンズプラザ（東京都渋谷区神宮前５丁目 53-67　コスモス青山 B1F）にて、関東 ESD 推進ネットワーク 第６回 地域フォーラム「ユースと社会の関わりによる、深い学びを考える」が開催されました。環境パートナーシップちばから代表の桑波田と学生団体おりがみの土谷が登壇しました。ESD は Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

発表のテーマは「ユースボランティアと地域の環境活動のマッチング」についてです。私がボランティアとして参加した、浦安三番瀬でのクリーン活動を取り上げさせていただきました。このボランティアでは、クリーン活動に加えてゴミアートの活動も行い、これに参加した理由や感じたことを具体的にお話ししました。さらに、環境パートナーシップのマッチング事業や、その後の私の活動の展開として幕張の浜のビーチクリーンについてもお話ししました。

分科会では「ユースと社会の活動の場」について、様々な立場の方と共にディスカッションを行いました。これからユースと活動する場をどのように、どんな人に向けて、どんな場所にしていくかなどの多様なアイデアが出され、非常に有意義な時間となりました。

私たちだけでなく、他の登壇者の発表やパネルトークでのお話も大変興味深く、学びのあるものとなりました。ESD は今後の社会において非常に重要な考え方になります。このような機会を作り、様々な方が連携していくことが大切だと感じました。

ESD 地域リーダー交流会　報告

２月 28 日（火）にオンラインで ESD 地域リーダー交流会を開催しました。昨年は、「ブラッシュアップ研修会」でしたが、今年は「ゆるくみんなでワイワイ話せたら」と、「交流会」となりました。13 名の皆様、ご参加ありがとうございました。今回は、紙漉きのプログラムでお世話になった浦安市の小学校の山下先生が参加してくださったことで、少しいつもと空気が変わり学校と団体とのお付き合いや学校の事情など、とても盛り上がりました。

まずは全員が順番にプログラムにからめた自分の取組の紹介をしました。皆さんそれぞれのプログラムを思い出すと同時にその後を改めてお聞きして、少し懐かしい気持ちになりました。SDGs やごみ減量、生ごみたい肥の授業を小学校で行っている話や、三番瀬水槽や親子初めてハゼ釣り教室を行っている話、ホタルの里での里山活動、谷津田で元理科の先生と一緒に月２回行っている親子自然体験活動、いすみで行っているオーガニックでお米を作る授業、八千代市の小学校での「誰が印旛沼をよごしたの」などなど、いろいろありました。小学校の先生が参加されたせいか学校での授業の話も多かったです。

心に残っているのは、山下先生がおっしゃっていた「学校で体験活動を取り入れる際、リードする教員側がその際の体験活動の価値を理解しているのか。意味合いを理解しているか。どういう学びをさせたいか、その学びに沿っているから意味のある活動になっていた。」「思いや願いがないと市民団体さんと手を取り合って質の高い活動にしていくのは難しい。打合せをする時間、余裕もお互い難しい中どうやっていけばいいのかな。」という話です。学校連携にもつながることで、また改めてお話をお伺いしたいと思いました。

（文責：交流会担当 廣田 由紀江）

ESD プログラム体験会に参加して

とんがらし座・環境カウンセラー　小堀 功

【はじめに】

この度、環境パートナーシップちば主催の「五感を感じる森林浴 inner journey ＋沖ノ島」のESD プログラム体験会（２０２３年３月７日）に参加し、日頃は地域資源（森林・海）に接することがないため、貴重な体験をさせて頂きました。

【体験１：大房岬公園】

海岸遊園地のティータイムでは、クイズ形式で自然に生息する食物を使った食べ物、飲み物を頂きました。最初は赤黒いつぶつぶの桑の実、次はドライフルーツで不思議な味。答えはランブータンの実、最後は温かいお茶でした。一口飲んで柑橘系のお茶と感じました。答えは、くろもじ茶でした。全てが新しい体験でした。

【体験２：ホテル＆リゾート南房総】

「海の豊かさを守ろう」について、砂浜のゴミから出たプラスチックで作り上げるアートの世界の展示があり、こんな綺麗なアートが作れるくらいのプラスチックゴミが集まるなんて、脱プラスチックの取り組みが進んでいるのか心配！と感じました。

【体験３：沖ノ島】

戦争遺跡である防空壕の存在に驚きました。暗い中を進み、海側に出た時に先生から「チーバくんの足元です」と言われた時、何故だかホッとした気持ちになれました。また台風の影響により緑が失われつつあることも体験の中で強く印象として残りました。

【最後に】

全てが初めてづくしで学ぶことが多く、日頃、企業内で循環型社会の形成に従事している自分としては、新しい分野での環境活動を見て、新鮮で充実していた事が印象として強く残り、環境問題の幅、知識も広げることができました。

今回の体験会でご指導頂きました先生方へ、本当にありがとうございました。改めて感謝の意を申し上げます。

五感を取り戻した気がした！を表現

海を体感

江戸前講座　～江戸前ってなあに？～

この講座は、「浦安三番瀬を大切にする会」が主催、浦安市の共催、東京湾再生官民連携フォーラム後援で、「『海にありがとう』うらやす市民大学公開講座」として、2023 年１月 29 日にうらやす市民大学の講義室とオンラインで開催されました。

開催趣旨は、三番瀬・東京湾に対し「海にありがとう」という感謝の気持ちで、さまざまな生き物が共生する豊かな海にするために、私たちに何ができるか考える、ということでした。

基調講演は、元東京都島しょ農林水産総合センターの小泉正行さんの「東京湾奥に棲み処を求めて集まる江戸前生物の悲喜こもごも」。小泉さんが最近共著で出された「東京湾―生きものと共にみる長期的なうつりかわり」（地人書館）の内容に沿ってのお話でした。豊かな江戸前の海が高度経済成長期に干潟の埋め立てと大量の汚水のダブルパンチで瀕死の状態になったが、現在は水質が一定程度改善され、生きものが部分的に戻って来ている。東京湾全体は無理でも、生きものたちが少しでも住みやすい環境づくりをしていこう、という内容でした。

話題提供としては、江戸前勉強会主宰・海辺つくり研究会理事長の古川恵太さんから東京湾再生官民連携フォーラムと『江戸前ハゼ復活プロジェクト』についての紹介がありました。浦安では、浦安水辺の会がハゼ釣り教室などを行いながら、ずっとハゼ復活プロジェクトに協力しているそうです。

お二人の話のあと、参加者からは、「江戸前」の話なのに食べる話が登場しなかったのは残念、東京湾の生きものが少しずつ復活しているということを聞いて希望が持てた、東京湾の再生に市民はどう関わっていけばよいか、などの感想・意見が寄せられました。　　（文責：小倉 久子）

令和４年度千葉県環境学習等に関する交流・協働の場づくり事業
「谷口たかひさ講演会」参加報告

柴田 加寿子

２月８日に千葉県庁で開催された千葉県環境学習等に関する交流・協働の場づくり事業『谷口たかひさ講演会』に参加しました。

「ホームレス環境活動家です」と自虐的な自己紹介をされた谷口さんは、この講演会が 1416 回目というほど、日本中、世界中を巡って気候危機に警鐘を鳴らす活動を続けています。インパクトの強い映像とデータにより、世界各地で今おきている気候変動による非常事態が紹介されました。豪雨と洪水、猛暑や森林火災、海面上昇、そして近い将来予想される水不足、食糧供給不安定により飢えに苦しむ人の 30%を食糧自給率の低い日本が占めるだろうことなど、次々と突きつけられる地球の現状に胸が苦しくなるばかりでした。

そして、気候変動は世界の安全を脅かすもので、今のままの無関心・無行動を続けるうちに、私たちは自然よりも先に平和を失うのだという厳しい予測に、より切迫感を感じさせられました。

私たちが今あるのは、その平和と命を先人たちがつないでくれたからこそのもので、では私たちは未来から託されているこの地球に今何をしているのか、またはなぜ何もしていないのか。もはや気候変動に「無関心」でいられる人はいても、「無関係」でいられる人はいないという谷口さんが示したのは、「みんなが知れば必ず変わる」という希望でした。パンドラの箱の底を覗いたような講演会でした。

災害にもまけない森づくり

一般社団法人もりびと　千葉 美賀子

里山が暮らしの源だった頃

団塊の世代前後が子供だった頃、もりびとの拠点である長南町の手入れされた里山の地面は、ふかふかに柔らかく、裸足でも歩けるくらいだったと言います。また、さまざまな山の恵みが子供たちの空腹を満たしてくれたとも。

そんな里山が維持できていたのは、そこに暮らしを支え、収益にもつながる素材があったから。定期的に伐採する広葉樹は燃料となる薪炭やキノコの原木として出荷され、枝打ちされた杉やヒノキの枝葉は焚き木用に。落ち葉類は農業用のたい肥にと、暮らしに密着した素材が揃っているのが里山でした。そして木漏れ日のさす林内には、果実やさまざまな山菜が生育していました。そして子供たちはそんな里山で、遊びながら生活の知恵を学んでいくことができたのです。

なぜそのような里山が、荒れたままの里山になってしまったのかは、みなさんすでにご存じのとおりです。

いよいよスタート「どんぐりの森」づくり

もりびとのメイン事業は特殊伐採（狭い場所や高い所にある樹木を根元から倒さずに伐採すること）ですが、同時にメンバーの所有する山林で、伐採の訓練を兼ね整備を進めている場所があります。ご多分に漏れず薪炭林から拡大造林により、杉山となった山林（一部、梅林と雑木林）です。

スタート時から、災害時に避難場所としても活用できる場所にしていこうとの思いの中、間伐が進む（間伐した杉は丸太燃料や薪に）につれ、さまざまな山菜が芽吹き、果物がなる様子を実体験する中で、ここは以前のような里山にもどしていかなければとの思いが参加者の中にますます強くなり、雑木林＝どんぐりの森 を復活させようとなりました。また同時に万が一災害が発生したときには、ここに来れば暫くは生活していけるような場所にもしていきたいとの思いもあります。

一部エリアにはすで雑木を植え始めていましたが、自然に芽生えたどんぐりの苗を生かしながら、今年 1 月より本格的に植林の準備を始めました。仕事の合間の作業であり、なおかつ若いメンバーに託していかなければならない事業のため、この里山からいかにして収益の挙げられる里山事業（産業）を展開していくか、さらなる試行錯誤の作業も同時に始まったところです。現在、いくつかの案も出ていますが、地域との連携も考え、この里山ならではの特産品づくりなども考えています。

「続かなければ意味がない。続かせるためには若者に興味を持ってもらわなければ。その為には生活できる基盤を作らなければ・・・」まだしばらく試行錯誤が続きそうな毎日です。

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　66　―
おききしました！　この人・この団体

ち～ば国際教育ネットワーク（CIEN）

持続可能な社会の担い手を育成し、担い手と社会の懸け橋に

会長　鈴木　良壽

私たち「ち～ば国際教育ネットワーク（CIEN）」は、JICA 千葉デスクに事務局を置く、JICA ボラン　ティアを経験した小・中・高・特別支援学校の教員を中心とした団体です。そこに「ESD」や「JICA」などのキーワードに興味をもつ千葉にゆかりのある方々も巻き込み、学びの場づくりや協働プロ　ジェクトの運営を行っています。

教員が中心であるため、学校現場での持続可能な社会の担い手育成に焦点を当てている一方で、すでに担い手としての素質を備える大学生ともつながりをもち、孤立した担い手がつながり合えるような場づくりも進めています。

持続可能な社会の担い手とは、よく聞くフレーズではありますが、どのような人のことを指すのでしょうか。１つの確固たる答えがあるわけではありませんが「一度出した答えを、もう一度検討し変えていけること」は、素質として不可欠なのではないかと思っています。

持続可能な社会をつくっていく時、具体的にこれが持続可能な社会であると明確な答えをもっている人はまずいません。常に様々な情報や現状を加味して、持続可能な社会とは〇〇のような社会かもしれないというイメージを積み上げていった先に、出来上がってくるものだと思っています。

そう考えた時大切なのは、一度イメージした社会像を疑い、変えていくことなのではないでしょうか。それは、一度出した答えを検討し直し、場合によっては変えていけることでもあります。そのためには、新しい視点や気づきが必要で、それをもたらしうる存在が、持続可能な社会の担い手だといえるのではないでしょうか。

では、新しい視点や気づきは、どうしたら得られるのでしょうか。これも、１つの確固たる方法があるわけではありません。私たち CIEN としては、JICA 千葉デスクと協働していること、私たち自身が JICA ボランティア経験者であることを活かしたいと考えています。

例えば、途上国経験を活かして、新しい視点や気づきを得られる具体的な現地の情報を発信する。本質を問い直すテーマを設定し、多様な人たちで話し合う場をつくる。また、実際に途上国出身の方々と、関わりあう場をつくるなどです。2023 年１月には、千葉にゆかりのある大学生８名とともに「カタリバ season3」と題して、重要だと感じている社会課題をテーマに、千葉で活躍する人や JICA ボランティア経験者をお呼びし、多様な方々と語り合う企画を実施しました。

この企画は、新しい視点や気づきを得る機会となっただけでなく、これから社会に出ていく大学生に対し、多様な選択肢があることも同時に提示できる設計になっていました。大学時代に、社会課題や地域課題の解決に向けて取り組んできた経験が、就活になると途端に意味をなさないと感じる学生に出会ってきました。持続可能な社会の担い手となりうる学生たちとつながり、学生と社会の小さなかけ橋に CIEN がなれれば考えています。

このように、学校現場での持続可能な社会の担い手育成だけではなく、社会に出てすぐにでも担い手となりうる学生ともつながりながら、持続可能な社会に向けて取組を進めたいと思っています。

運営会議報告

２月度運営会議

２月９日（木）20:00～22:02
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- 印旛沼環境基金助成事業成果報告会 1/24
- 北拠点づくり会議開催　1/27
- いちはら環境フェスタ実行委員会開催 1/30
- SDGs 学生フォーラム企画運営会議　1/30
- だより 149 号 発送
- エコメッセちば運営員会　2/2
- ふなばしエコカレッジ講座 2023 年度打診
- 千葉県環境審議会企画政策部会　2/1　他

【協議】
- だより 150 号
- SDGs 学生フォーラム in ちば
- 地球環境基金事業（2022 年度事業）
- 印旛沼に関する会開催　4/1
- 2023 年度事業
- 理事会開催　2/20
- 環境教育関東ミーティング　2/11

３月度運営会議

３月９日（木）20:00～22:00
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- 第２回理事会開催　2/20
- ESD 地域リーダー交流会　2/28
- ESD プログラム体験会　3/7
- いちはら環境フェスタ実行委員会　3/3
- SDGs 学生フォーラム企画運営会議　3/6
- エコメッセちば運営員会　3/2
- 関東 ESD 推進ネットワーク地域フォーラム 3/5
- 環境教育関東ミーティング　2/11　他

【協議】
- SDGs 学生フォーラム in ちば
- 地球環境基金事業（2022 年度事業）
- 印旛沼わいわいサロン（大和田排水機場）4/1
- いちはら環境フェスタ出展検討　6/5～10
- 2023 年度事業
- 会計運営について

お知らせ

【第６回通常総会ご案内】

NPO 環パちば第６回（令和５年度）通常総会を以下の日程で開催します。会場(30 名）とオンラインで開催します。

正会員のみなさまには、４月末に詳細をご案内させていただきます。

開催日時：令和５年５月 21 日（日）
13 時 30 分～15 時
開催場所：千葉市生涯学習センター
研修室１（千葉市中央区弁天３－７－７）、オンライン

【第８回いちはら環境フェスタ開催】

(1) 趣旨
「いちはら環境フェスタ」は、市民一人ひとりが環境保全及び３Ｒの推進等、環境に対する理解と関心を深め、環境にやさしい行動を率先して実行するきっかけを提供することを目的とするものです。

(2) 開催日時
（屋内出展）：令和５年６月５日(月)～10 日(土)
午前９時～午後４時（初日は午前 12 時から、最終日は午後３時まで）
（屋外出展）：令和５年６月 10 日（土）
午前 10 時～午後３時

(3) 開催場所：アリオ市原１階サンシャインコート（屋内・屋外）

主催：いちはら環境フェスタ実行委員会・市原市

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633　　E-mail：info@kanpachiba.com
ホームページ：https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。